

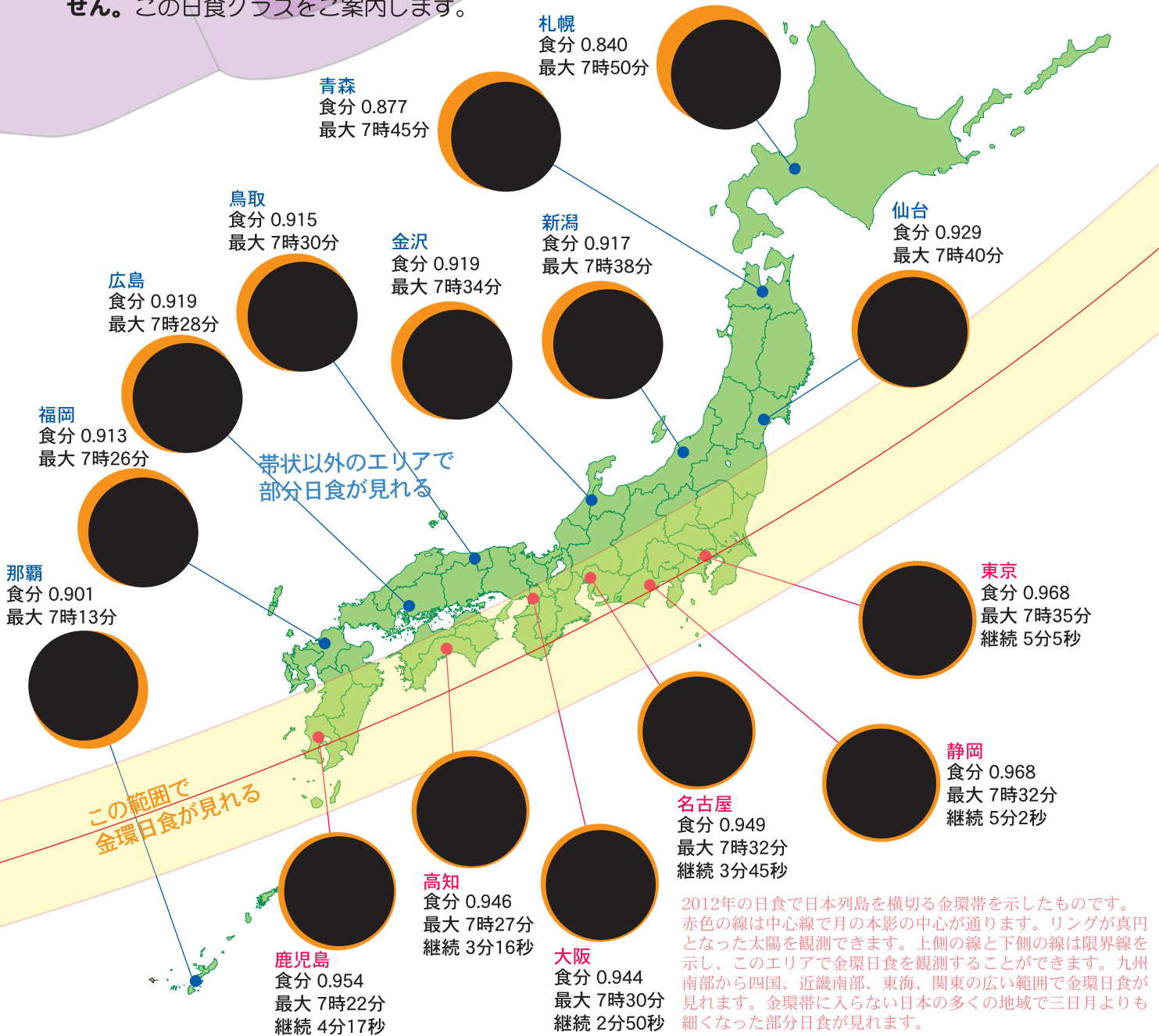
数百年に一度の世紀の天体ショー「金環日食」を見よう!

貴社オリジナルの「日食グラス」を作いませんか?

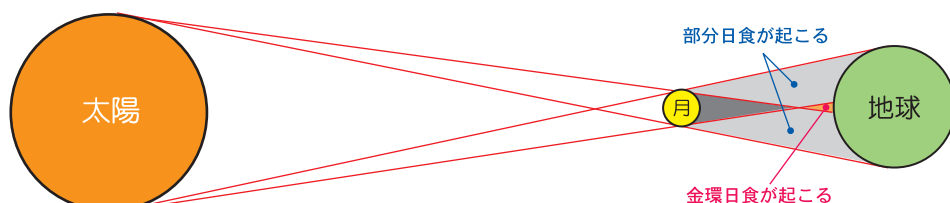
2012年5月21日「金環日食」が日本で見られる

前回日本で見られた金環日食は1987年9月23日に沖縄で観測されたものです。それから25年後となる2012年5月21日に、再び日本で金環日食が見られます。今回の場合は離島ではなく、東京や大阪、名古屋など、太平洋側の広いエリアの大都市で見ることができます。

部分日食と違い金環日食は非常に珍しい天文現象で、同じ観測地点なら数百年に一度しか巡ってきません。この日食グラスをご案内します。



2012年の日食で日本列島を横切る金環帯を示したものです。赤色の線は中心線で月の本影の中心が通ります。リングが真円となった太陽を観測できます。上側の線と下側の線は限界線を示し、このエリアで金環日食を観測することができます。九州南部から四国、近畿南部、東海、関東の広い範囲で金環日食が見れます。金環帯に入らない日本の多くの地域で三日月よりも細くなった部分日食が見れます。



■金環日食とは
日食は太陽が月によって隠されることにより太陽が欠けて見える天文現象です。月が太陽の内側へ完全に入り込むと太陽は細いリング状に見えます。これを金環日食といいます。左図のように月の影の濃い部分が地球に届かない場合に見られます。月の本影の面積は地球全体の面積に比べて極端に狭いので、金環日食が見られる地域は地球上のごく一部に限られます。2012年は運よく日本が月の本影に入ります。